

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	最近の更新年月日
真庭市	蒜山西茅部地区 (笠木、茅部野西、茅部、田部、 郷原、大蛇)	令和5年3月13日	令和 年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	150.98 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の耕作者の耕作面積の合計	87.63 ha
③地区内における75歳以上の農業者の耕作面積の合計	12.14 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.00 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.25 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	42.70 ha

2 対象地区の課題

- ① 酪農を主とした専業農家及び水稻を中心とした兼業農家による農業地域である。
また、耕作者の高齢化が進み、新規就農者が少なく、担い手不足である。
- ② 中山間地域である為、鳥獣による被害が多い。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

水田利用は、農地中間管理機構を利用し、個人、担い手及び認定農業者が主として担う。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

① 農地の貸付等の移行

アンケート調査により貸付け等の意向が確認された 55.33 haの内、個人等へ 30.98 haが貸付済みである。

なお、24.35 haについては、今後、個人、集落営農組織及び農地中間管理機構を通じて農作業受委託による農地貸付等により移行する。

② 農地中間管理機構の活用方針

農地中間管理機構を活用し、農地の集積、集約化により効率的な営農の実現を図る。

③ 新規・特産化作物の導入方針

(1) 里海米の集団栽培に取り組み収益性の向上を計る。

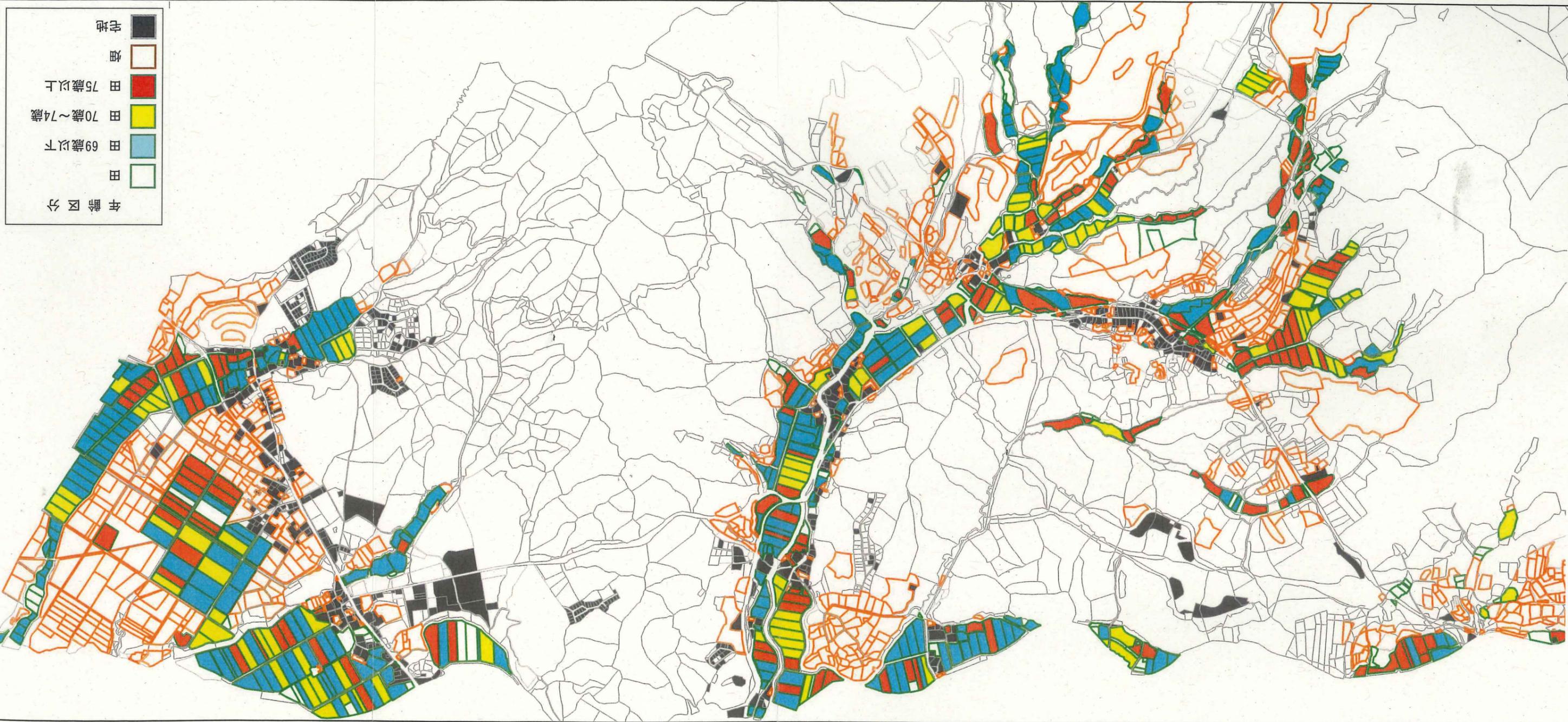
かき殻を粉砕した石灰肥料を施用した栽培に取り組み品種の統一、栽培技術を統一して共同出荷することにより収益性を高上する。

(2) SDGsの取り組み

稲わらの焼却を行わず、稲わらのたい肥化及び液肥の散布により地力向上を促進し省力化を図る。

(3) 稲作用肥料のプラスチック殻の除去

水田排水口でのプラスチック殻の回収方法の改善及び代替肥料の導入を図る。



宅地	■
畑	□
田 75歳以上	■
田 70歳~74歳	■
田 69歳以下	■
田	□
年齢区分	

